

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「明日(あす)を創ろう! みんなが笑顔 夢中になって」
 知 : 主体的に考え、意欲的に学び続ける子を育てます
 徳 : 自分を律する態度と人を思いやる優しさをもつ子を育てます
 体 : 体づくりを通じ、心身ともにたくましく生きる子を育てます
 公 : 夢や目標を持ち、よりよい社会を創造しようとする子を育てます
 関 : 自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する子を育てます

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力

- 万騎が原中ブロック:「自分づくり」
人や社会との関わりの中で育まれる
- 万騎が原小らしさ :「問題解決力」
個や集団の中で育まれる

具体化した資質・能力

自分らしさを発揮しようとする力 : 「主体性・積極性」「自己肯定感」
 ひとのつながり : 「共同的に行動する姿勢」「人と協調する力」
 問題解決力 : 「意思決定する力」「課題に対応する力」

中期取組目標

「笑顔あふれる万騎が原の学校・まちづくり」
 ○夢中になって物事に取り組むことができるようになります
 ○主体的に課題を解決する力を身につけることができますようにします
 ○相手を思いやるやさしい心を育みます
 ○まちとかかわりまちを愛する心を育てます

学力向上アクションプラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|----------|---|
| 生きてはたらく知 | ○子どもが活躍する場、輝く場の設定を意識した授業づくりを行う。 ○日々の生活と関連付けながら学習活動を展開し、子ども一人ひとりが興味・関心をもち、主体的に学ぶことができるようにする。 ○体験的な活動を取り入れたり、学習形態を工夫したりして、協働的に学ぶことができるようにする。 ○子どもの「見通し」と「ふり返り」を重視した授業づくり・単元づくりを行う。 |
| 担当 | 研究・研修 |

| 学力向上に関わる本校の状況 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・令和3年と令和4年を比べると、どの学年も横浜市の平均を上回っている。本校のみで比較すると、どの教科も令和3年よりも学力が伸びている。 ・学習意思を見た場合、教科によって学習することが好きという点では差があるが、どの教科も自分の考えを活かそうとする意識は高い。しかし、日常の学習を振り返って見た時に、主体的に共同的に取り組む場面も見られるが、半面自らの考えを進んで活かそうとしない様子も見られる。 ・児童が自分の考えを活かそうとする意識が高いことから、指導する側としては、「実体験を通してつかむ学び」「互いの考えを出し合いながら深めていく学び」を日常の学習の中で工夫し、児童がさらに意欲をもって授業に向かうようにしていくことが必要であると考える。 |

| 今年度の目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○自ら動き、学ぶ子の育成 ○見通しをもって学習し、自分の考えを深めたり、ふり返ったりして、学びを深める子の育成 ○本物との出会いを大切に、協働的に学ぶ子の育成 |
| 目標を実現するための具体的行動プラン |
| <p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの思いや願いに寄り添った学習活動を展開する。 ・児童理解を丁寧に行う。多角的な目で子どもをみとるようにする。 ・多様な教材の ○日々の生活と関連付けながら学習活動を展開する。 ・生活から関心を広げていくことができるようにする。 ・学んだことを生活に生かしていくことができるようにする。 ○体験的な活動を取り入れたり、学習形態を工夫したりして、協働的に学ぶ。 ・友達と考えを認め合ったり自分や友達のおよきに気づいたりするような授業づくりを行う。 ・具体的な人から学ぶようにする。 ・本物との出会いを大切に、体験的に学ぶようにする。 ・ペア、グループなど子どもの必要感を大切に学習形態の工夫を行い、学び合い、高め合うことができるようにする。 ○子どもの「見通し」と「ふり返り」を重視した授業づくりを行う。 ・学習の導入部分を工夫し、「見通し」をもち、意欲を高めることができるようにする。 ・学習した内容をふり返り、次の学習や生活に生かすことができるようにする。 <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○子どもの思いや願いに寄り添った学習活動を展開する。 ・児童理解を丁寧に行う。多角的な目で子どもをみとるようにする。 ・多様な教材の ○日々の生活と関連付けながら学習活動を展開する。 ・生活から関心を広げていくことができるようにする。 ・学んだことを生活に生かしていくことができるようにする。 ○体験的な活動を取り入れたり、学習形態を工夫したりして、協働的に学ぶ。 ・友達と考えを認め合ったり自分や友達のおよきに気づいたりするような授業づくりを行う。 ・具体的な人から学ぶようにする。 ・本物との出会いを大切に、体験的に学ぶようにする。 ・ペア、グループなど子どもの必要感を大切に学習形態の工夫を行い、学び合い、高め合うことができるようにする。 ○子どもの「見通し」と「ふり返り」を重視した授業づくりを行う。 ・学習の導入部分を工夫し、「見通し」をもち、意欲を高めることができるようにする。 ・学習した内容をふり返り、次の学習や生活に生かすことができるようにする。 |

豊かな心の育成推進プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|--------|---|
| 豊かな心 | ○道徳科の学習を通して道徳的価値を学び、特別活動や総合的な学習の時間、日常の学校生活で実践することができるようにする。 ○たてわり活動での異学年との関わりや稲作活動などの本物体験を通して、多様な人々と関わり、人と関わることのよさを味わうことができるようにする。 |
| 担当 | 特活・総合・道徳 |

| 豊かな心に関わる本校の状況 |
|--|
| <p>(1)豊かな心に関わる児童の実態</p> <p>○特別活動 本校のたてわり活動「ここにこ班活動」では、異学年との交流を行っていく中で、望ましい人間関係形成を行っていくことを目的としている。異学年との交流は、毎日登校班で学校に来ているという背景があるからか、前向きに取り組むことのできる児童が多い。</p> <p>○総合的な学習の時間 すぐに答えを求めようとする児童が多く、失敗を恐れ、自分から挑戦しようとする姿があまり見られない。総合的な学習の時間を通して、自分から問いを生み出し、目標に向かって様々な経験を重ね、成長につなげたい。</p> <p>○道徳 自分の思いを相手にきちんと伝える自己表現力や主体的に学ぼうとする意欲の乏しさを感じることもある。道徳的実践力を身に付け、自己肯定感・有用感を高めていくことが課題である。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況</p> <p>○特別活動 感染症対策の緩和も見られ、昨年度末からは積極的に取組を行ってきた。運動会や全校遠足、学年の活動の中でも積極的にたてわり活動を取り入れ、相手意識をもって学習や活動に参加できるように取組を行ってきた。</p> <p>○総合的な学習の時間 本校の特色である「稲作活動」を総合の時間に位置づけ、地域の方とのつながりを大切にしてきた。また、「はまっ子未来カンパニープロジェクト」に昨年度から参加し、企業の方と積極的に関わられるようにしている。ただ、各クラス、各学年によって取組に差が出ているのが現状である。</p> <p>○道徳 研修を行い、道徳の時間の授業の展開の仕方や評価の方法について、共通理解を深めた。</p> |

| 今年度の目標 |
|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ○自分を律する態度と人を思いやる優しさをもつ子の育成 ○自分を見つめ、多様性を尊重し、共生する子の育成 |
| 目標を実現するための具体的行動プラン |
| <p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たてわり活動での異学年や本物体験との出会いを通して、人と関わることのよさを味わうことができるようにする。 ・5月に実施する全校遠足をたてわり活動のスタートとして位置付け、年度を通して異学年が関わる機会を計画的に取り入れていく。また下級生の手本として憧れられるような学校のリーダーとして、6年生を学校全体で育てていく。 ○総合的な学習の時間を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、地域の人や企業の人と積極的に関わり、人とのつながりの大切さを実感できるようにする。 ・年度当初に総合の年間計画を立て、見通しをもって学習を進められるようにする。 ・地域の人・もの・ことを生かした学習活動を子どもたちと一緒に考えるようにする。 ○道徳科の学習を通して道徳的価値を学び、特別活動や総合的な学習の時間、日常の学校生活で実践することができるようにする。 ・よりよい学校生活、集団生活の充実に重点をおいて学習する。 ・日頃の子どもの実態を把握した導入の工夫、振り返りの充実を通して自分事としてとらえられるようにする。 <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○たてわり活動での異学年との関わりや稲作活動などの本物体験を通して、多様な人々と関わり、さまざまな価値観や良さを認め合うことができるようにする。 ・ベア学年での活動(1・6年、2・4年、3・5年)での活動を多く取り入れていく。 ○探求的な見方・考え方を働かせ、総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えられるようになるために、地域の人や企業の人と積極的に関わり、人とのつながりの大切さを実感できるようにする。 ・総合的な学習を進めていく中で、様々な自分の生活を見直し、自分の特徴や良さを理解できるようにする。 ・探究活動を通して、異なる意見や他者の考えを受け入れ、尊重する態度を養う。 ○道徳科の学習を通して道徳的価値を学び、特別活動や総合的な学習の時間、日常の学校生活で実践することができるようにする。 ・親切、思いやり、感謝、礼儀の充実に重点をおいて学習する。 ・日頃の子どもの実態を把握した導入の工夫、振り返りの充実を通して自分事としてとらえられるようにする。 |

健やかな体の育成プラン

| 重点取組分野 | 具体的取組 |
|---------|--|
| 健やかな心と体 | ○子ども一人ひとりが「できた」「楽しかった」という経験を積み重ねられるように授業づくりを工夫し、実践する。 ○体力テストのデータの分析結果を踏まえ、体力向上を目指した活動に取り組むようにする。 ○あいさつの大切さを伝えたり、あいさつをする子ども一人ひとりの姿を価値付けたりすることを通して、進んであいさつをすることで人とつながる心を育み、気持ちのよい学校生活を送ることができるようにする。 |
| 担当 | 体育・保健 |

| 健やかな体に関わる本校の状況 |
|--|
| <p>(1)健やかな体に関わる児童生徒の実態</p> <p>・どの学年も全国平均を上回っている種目もあるが、全国平均を下回っている種目もあった。また、昨年度(令和3年度)と比べると、運動能力の低下も見られる。 ・放課後に習い事で運動に触れる児童もいるが、運動する機会の少ない児童と二極化している実態もある。</p> <p>(2)これまでの学校の取組状況 ・休み時間に、全校でのドッジボール大会を行い、運動機会の確保と共に、異学年で交流できる機会を設けた。 ・今年度は大池を走ろう会を実施した。それと共に、休み時間のベース走を行い児童の体力向上を図った。大池を走ろう会を再び実施ようになったため、放課後に大池を走って体力向上に務める児童の様子も見られた。 ・年度初めの全校朝会で挨拶の目的・価値について共有し、継続して子どもたちに挨拶の大切さを指導している。</p> |

| 今年度の目標 |
|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ○自分自身の健康・運動に関する課題について関心をもち、自ら解決していこうとする子の育成 |
| 目標を実現するための具体的行動プラン |
| <p>上半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続して朝会や日々の生活の中で、よい挨拶についての価値づけを行い、子どもたち一人ひとりが自ら「挨拶をしたい」という気持ちを育てていく。 ○子どもたち一人ひとりが課題を見つけ、めあてをもって自ら取り組めるような授業づくりを行う。 ・教材、導入の工夫、振り返りの充実を通して自分事としてとらえられるようにする。 ○体力テストの結果や日常生活を振り返る時間や機会を意図的に設定していく。 ・振りかえりカードを充実させる。 ○スポーツフェスティバル、大池を走ろう会などの体育的行事を通して主体的に運動に取り組むことができるようにする。 ・行事ごとめあてをたて、自ら取り組めるようにする。 ○「運動したい」と子どもたち一人ひとりが思えるような取組を委員会等を通じて子どもたちと作っていく。 ・ドッジボール集会などの計画・実施 ・あいさつ週間の計画・実施 <p>下半期</p> <ul style="list-style-type: none"> ○継続して朝会や日々の生活の中で、よい挨拶についての価値づけを行い、子どもたち一人ひとりが自ら「挨拶をしたい」という気持ちを育てていく。 ○子どもたち一人ひとりが課題を見つけ、めあてをもって自ら取り組めるような授業づくりを行う。 ・教材、導入の工夫、振り返りの充実を通して自分事としてとらえられるようにする。 ○体力テストの結果や日常生活を振り返る時間や機会を意図的に設定していく。 ・振りかえりカードを充実させる。 ○スポーツフェスティバル、大池を走ろう会などの体育的行事を通して主体的に運動に取り組むことができるようにする。 ・行事ごとめあてをたて、自ら取り組めるようにする。 ○「運動したい」と子どもたち一人ひとりが思えるような取組を委員会等を通じて子どもたちと作っていく。 ・ドッジボール集会などの計画・実施 ・あいさつ週間の計画・実施 |